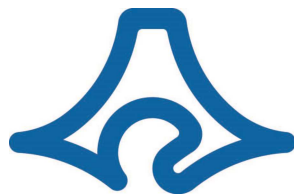


令和 6 年 度
県 政 世 論 調 査
概 要 報 告 書

2 0 2 4



静 岡 県

目 次

調査の概要.....	1
<生活についての意識>	
1 暮らし向き.....	2
2 日常生活の悩みや不安.....	3
3 静岡県の住みよさ.....	4
<県の仕事に対する関心>	
4 県政への関心度.....	5
5 行政機関への意見や要望、不満.....	6
6 広報媒体の浸透度.....	8
7 日常の課題や生活における意識.....	12
<ユニバーサルデザインに関する意識>	
8 ユニバーサルデザインに関する意識.....	23
<次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）に関する意識>	
9 次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）に関する意識.....	24
<社会のデジタル化に関する意識>	
10 社会のデジタル化に関する意識.....	25
<体感治安に関する意識>	
11 体感治安に関する意識.....	26
<森林整備に関する意識>	
12 森林整備に関する意識.....	27
<生涯学習に関する意識>	
13 生涯学習に関する意識.....	28
<充実感に関する意識>	
14 充実感に関する意識.....	29

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| (1) 生活についての意識 | (5) 社会のデジタル化に関する意識 |
| (2) 県の仕事に対する関心 | (6) 体感治安に関する意識 |
| (3) ユニバーサルデザインに関する意識 | (7) 森林整備に関する意識 |
| (4) 次世代エアモビリティ
(空飛ぶクルマ)に関する意識 | (8) 生涯学習に関する意識 |
| | (9) 充実感に関する意識 |

3 調査の設計

- (1) 調査地域 静岡県全域
- (2) 調査対象 県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (3) 標 本 数 3,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送配布（郵送及びWEB回収）
- (6) 調査時期 令和6年7月8日～7月31日
- (7) 調査機関 株式会社東京商工リサーチ 静岡支店

4 回収結果

	18歳以上の推定人口	標本数	有効回収（率）
東 部	986,055	993	450 (45.3%)
中 部	949,586	947	467 (49.3%)
西 部	1,065,183	1,060	543 (51.2%)
地域不明	-	-	2 (-)
全 県	3,000,824	3,000	1,462 (48.7%)

この冊子の読みかた

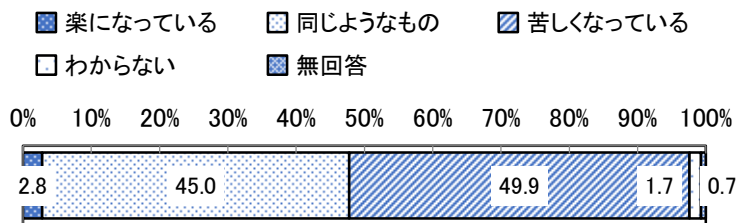
- 1 結果は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 数値やグラフの中の「件数」、「n」（number of cases の略）は回答者総数（あるいは分類別の該当者数）を示し、回答比率はこれを100%で表した。「SQ」（Sub-Question の略）は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに続けて行った質問を示す。
- 3 標本の年齢別構成比に基づいてウェイトバック集計を行った。そのため、各設問・選択肢の回答状況が本来の有効回答数（n=1,462）に占める割合と一致しない部分があり、混乱を避けるため、報告書のグラフ等においては回答者数（n）を表記していない。

1 暮らし向き — 「苦しくなっている」は49.9%

Q1	お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべて楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。(〇は1つ)
SQ	お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」と感じる理由はなんですか。(〇は3つまで)

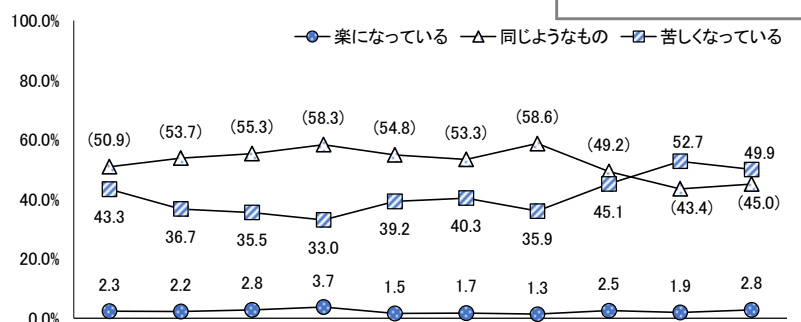
暮らし向き

- 「苦しくなっている」が49.9%で最も高く、「同じようなもの」の45.0%を上回っている。



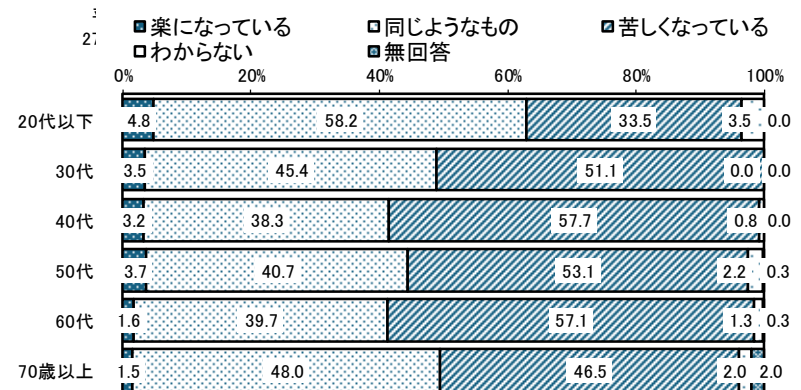
経年比較

- 「苦しくなっている」人の割合は、今年度は49.9% (前年度比+2.8ポイント) とほぼ5割となっている。



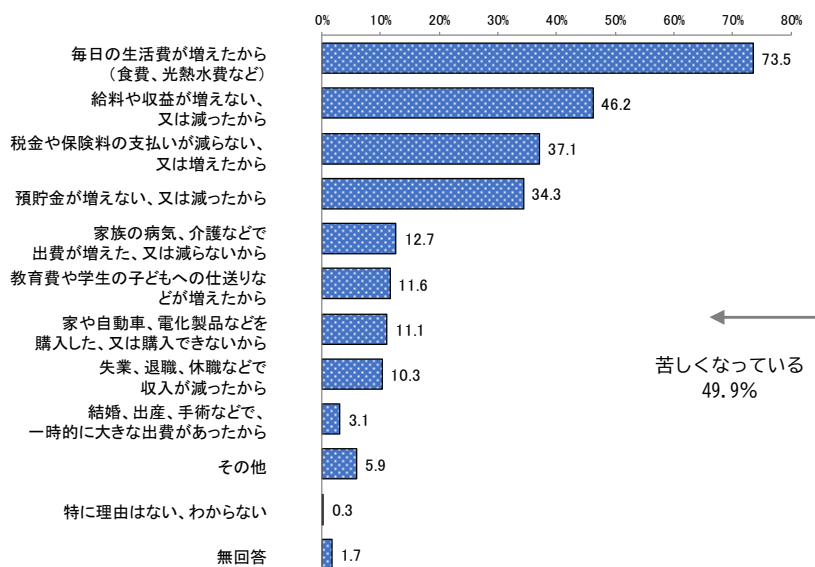
年代別

- 30代~60代では、「苦しくなっている」と回答した人の割合が「同じようなもの」を上回っている。
- 「苦しくなっている」人の割合は、『40代』(57.7%) が最も高く、『20代以下』(33.5%) が最も低くなっている。



SQ 苦しくなっている理由

- 「毎日の生活費が増えたから (食費、光熱水費など)」(73.5%) が最も多く、以下「給料や収益が増えない、又は減ったから」(46.2%)、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」(37.1%) となっている。



2 日常生活の悩みや不安 — 「悩みや不安を感じている」人は76.5%

Q2

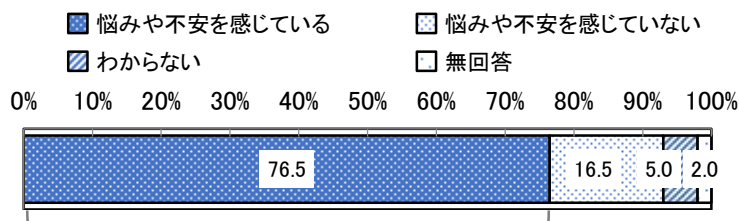
あなたは、日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも特に悩みや不安は感じていませんか。(〇は1つ)

SQ

悩みや不安を感じていることは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

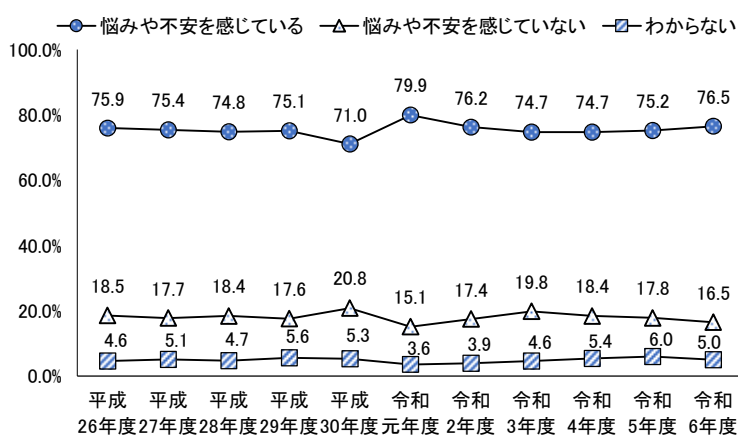
日常生活の悩みや不安の有無

- 「悩みや不安を感じている」と回答した人の割合は76.5%で最も高く、「悩みや不安を感じていない」は16.5%だった。



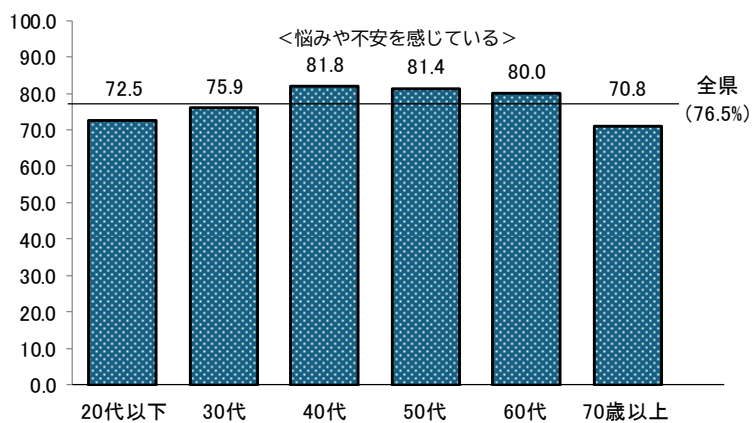
経年比較

- 「悩みや不安を感じている」人の割合は、平成26年度以降において7割以上で推移している。



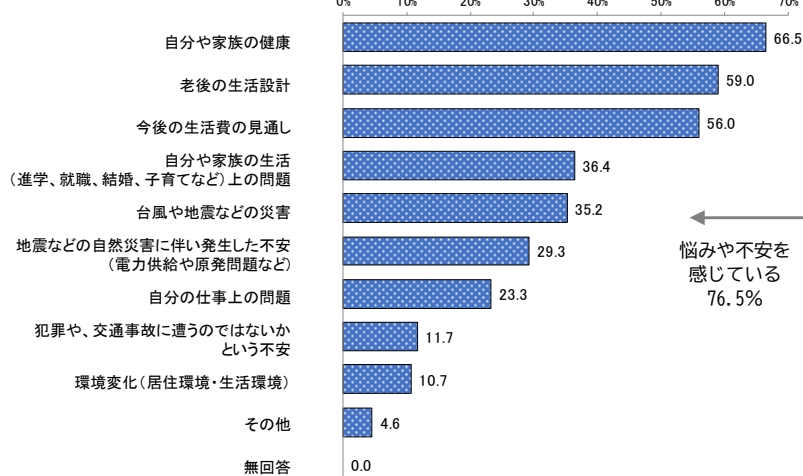
年代別

- 「悩みや不安を感じている」人の割合を年代別にみると、『40代』(81.8%)が最も高く、『70歳以上』(70.8%)が最も低くなっている。



SQ 悩みや不安の内容

- 「自分や家族の健康」(66.5%)が最も多く、以下「老後の生活設計」(59.0%)、「今後の生活費の見通し」(56.0%)、「今後の生活費の見通し」(56.0%)などとなっている。

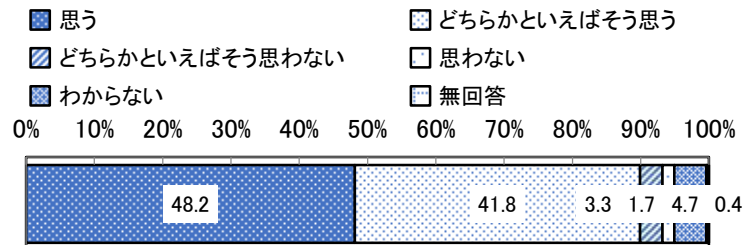


3 静岡県の住みよさ ― 住みよいところだと“思う”人は90.0%

Q3	あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。(○は1つ)
SQ	あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由はなんですか。(○は3つまで)

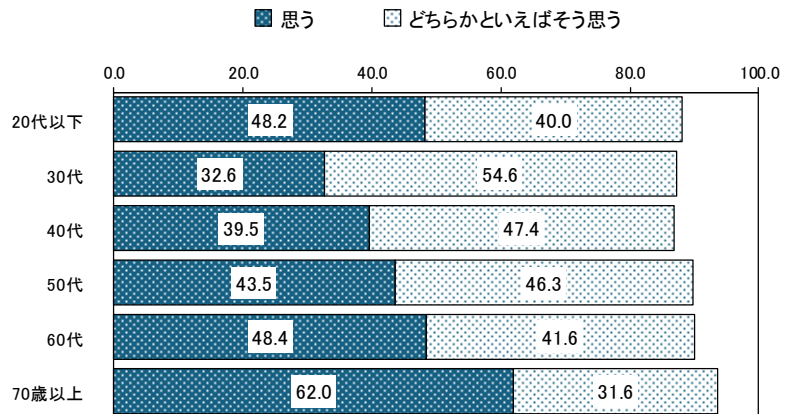
静岡県の住みよさ

- 静岡県は住みよいところだと“思う”人の方が圧倒的に高く、「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“思う”が90.0%、「どちらかといえばそう思わない」と「思わない」を合わせた“思わない”が5.0%となっている。



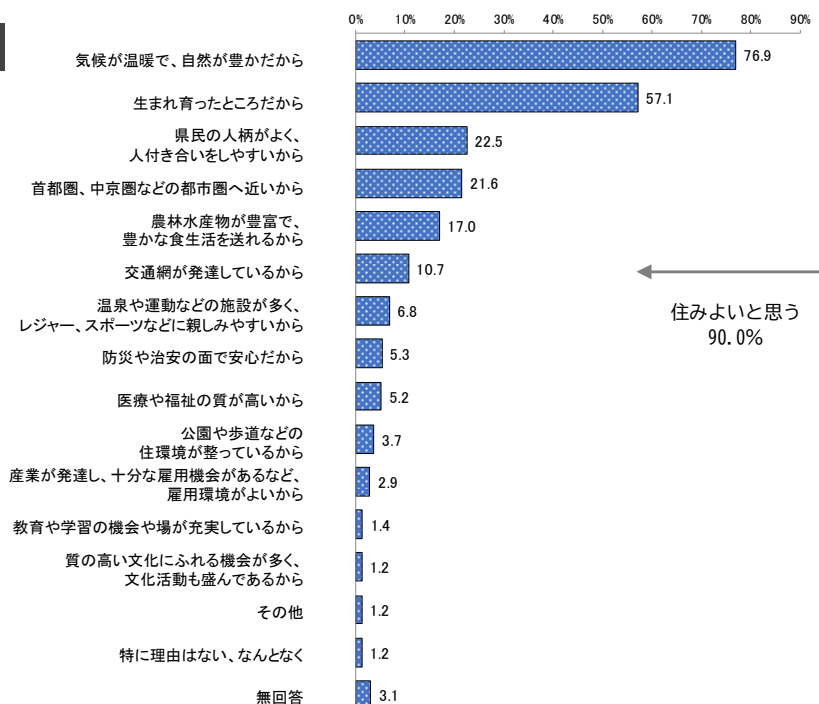
年代別

- 『70歳以上』は、「思う」(62.0%)が他の年代と比較して高くなっている。



SQ 住みよいところだと思う理由

- 「気候が温暖で、自然が豊かだから」(76.9%)が最も多く、以下「生まれ育ったところだから」(57.1%)、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」(22.5%)となっている。



住みよいと思う
90.0%

<県の仕事に対する関心>

4 県政への関心度 — “関心がある”人は65.2%

Q4	あなたは、県の政治や行政にどの程度関心がありますか。(〇は1つ)
SQ1	県の政治や行政に関心がある理由はなんですか。(〇は1つ)
SQ2	県の政治や行政に関心がない理由はなんですか。(〇は1つ)

県政への関心の有無

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”は65.2%、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた“関心がない”は31.6%となっている。

経年比較

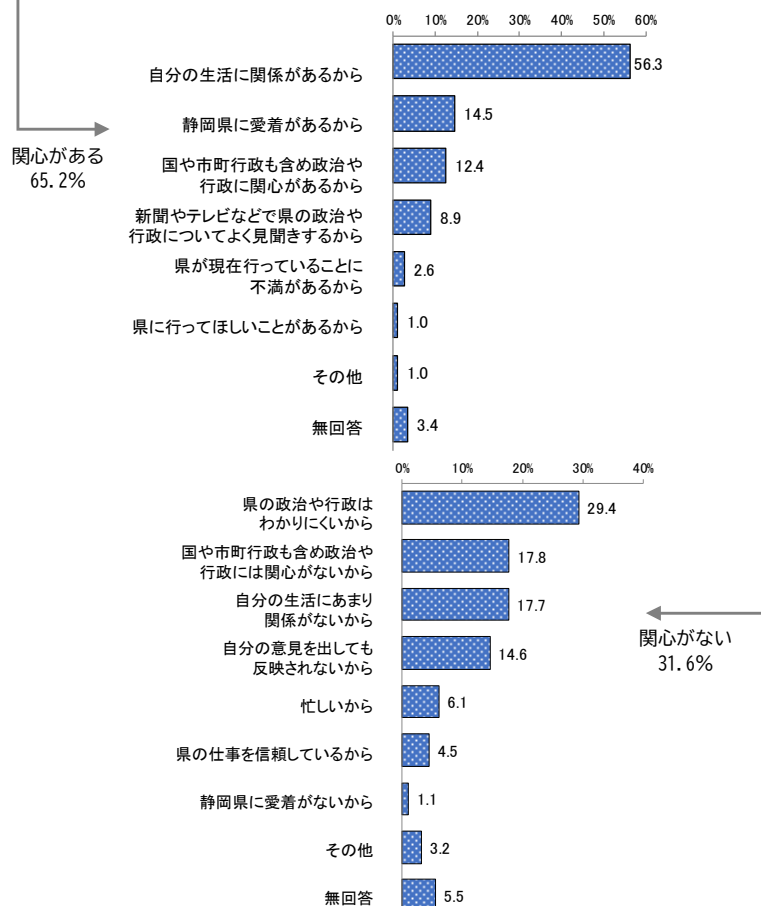
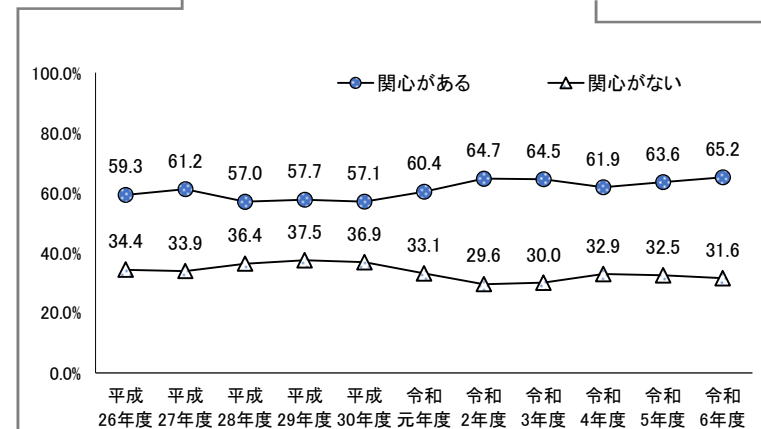
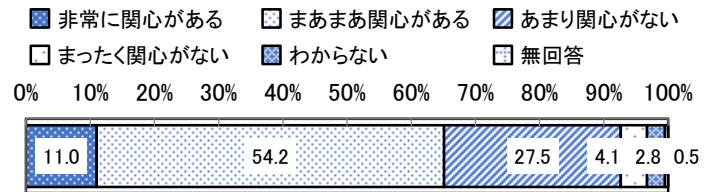
- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた“関心がある”の割合は、平成26年度以降は6割前後で推移している。

SQ1 県政に関心がある理由

- 「自分の生活に関係があるから」(56.3%)が最も多く、以下「静岡県に愛着があるから」(14.5%)、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」(12.4%)となっている。

SQ2 県政に関心がない理由

- 「県の政治や行政はわかりにくいから」(29.4%)が最も多く、以下「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」(17.8%)、「自分の生活にあまり関係がないから」(17.7%)となっている。

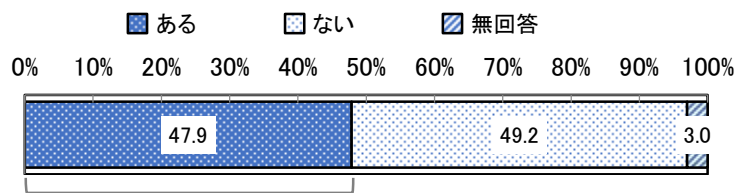


5 行政機関への意見や要望、不満 — 意見が「ある」人は47.9%

Q5	あなたは、この1年間に行政機関の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたりしたことがありますか。(〇は1つ)
SQ1	それは、どの行政機関が担当する仕事ですか。(〇はいくつでも)
SQ2	その県が担当する仕事についての意見や要望、不満は、県に伝える必要があると思いましたか。(〇は1つ)
SQ3	それでは、そのことを県に伝えましたか。(〇は1つ)
SQ4	どのような手段で伝えましたか。(〇はいくつでも)
SQ5	意見や要望不満があっても、県に伝えなかった主な理由はなんですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(〇は1つ)
SQ6	どうしてそのように思ったのですか。あなたのお考えに一番近いものを選んでください。(〇は1つ)

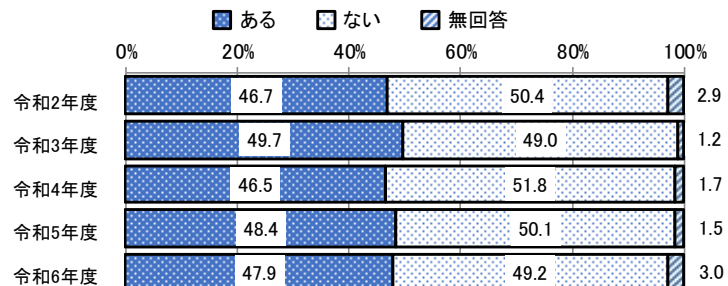
行政機関の意見や要望、不満

- 意見等が「ある」と回答した人の割合は47.9%、「意見等がない」は49.2%となっており、概ね同率となっている。



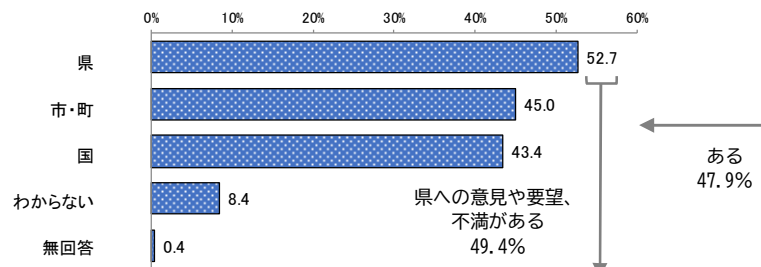
経年比較

- 意見等が「ある」は令和2年度以降は4割台で推移している。



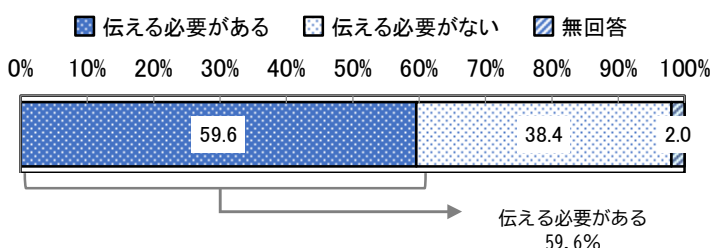
SQ1 担当行政機関

- 「県」(52.7%)が最も多く、以下「市・町」(45.0%)、「国」(43.4%)となっている。



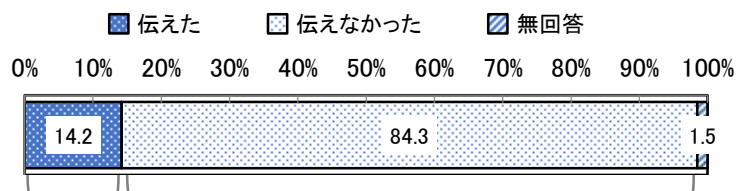
SQ2 伝達の必要性

- 県の仕事について意見等がある人のうち、そのことを県に「伝える必要がある」と回答した人の割合は59.6%、「伝える必要がない」は38.4%となっている。



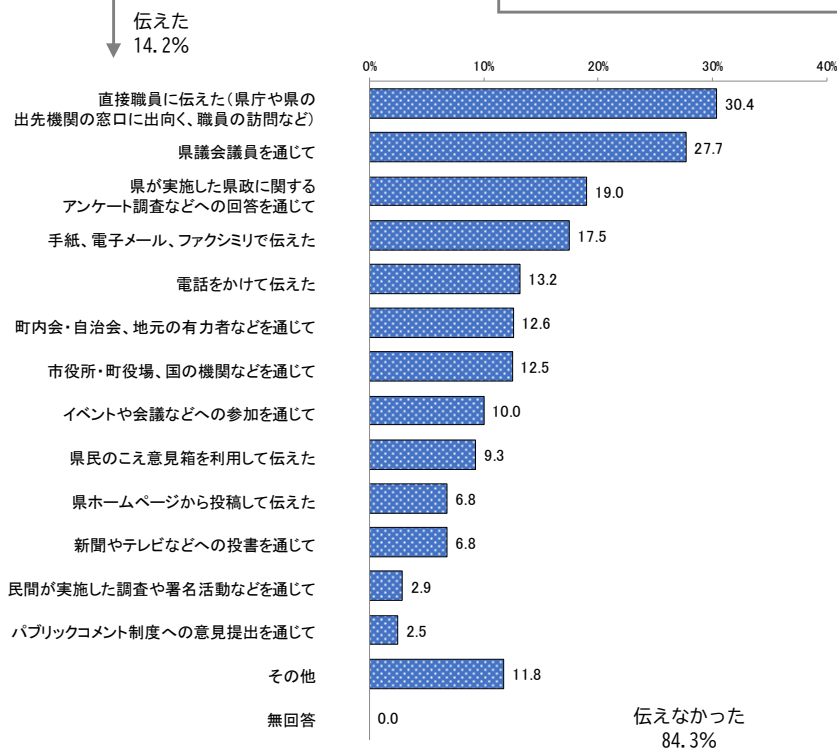
SQ3 伝達の有無

- 県に「伝えなかった」と回答した人の割合が84.3%と大半を占め、「伝えた」は14.2%にとどまっている。



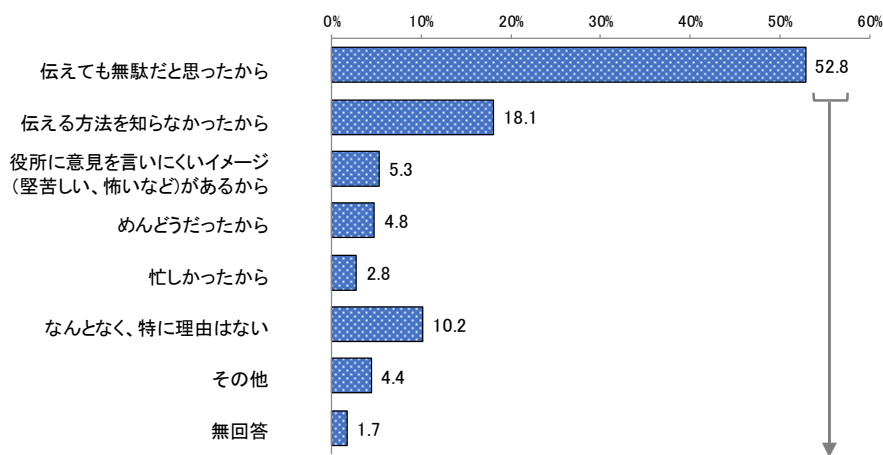
SQ4 伝達方法

- 「直接職員に伝えた（県庁や県の出先機関の窓口に出向く、職員の訪問など）」(30.4%) が最も多く、以下「県議会議員を通じて」(27.7%)、「県が実施した県政に関するアンケート調査などへの回答を通じて」(19.0%) となっている。



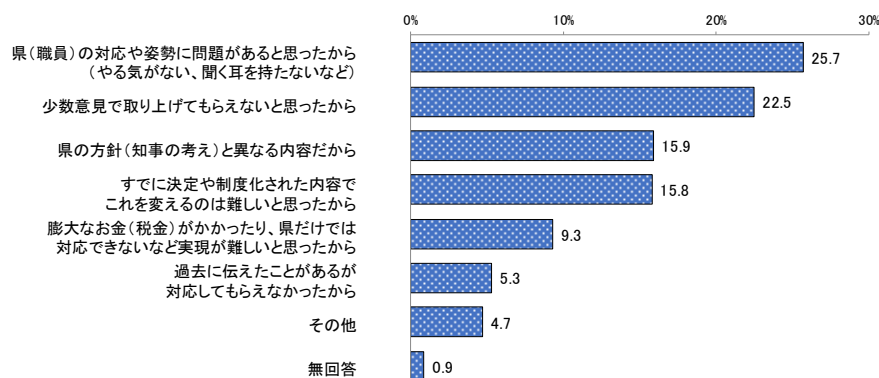
SQ5 伝達しなかった理由

- 「伝えても無駄だと思ったから」(52.8%) が最も多く、以下「伝える方法を知らなかったから」(18.1%)、「役所に意見を言いにくいイメージ（堅苦しい、怖いなど）があるから」(5.3%) となっている。
- 「なんとなく、特に理由はない」は10.2%となっている。



SQ6 伝えても無駄だと思った理由

- 「県（職員）の対応や姿勢に問題があると思ったから（やる気がない、聞く耳を持たないなど）」(25.7%) が最も多く、以下「少数意見で取り上げてもらえないと思ったから」(22.5%)、「県の方針（知事の考え）と異なる内容だから」(15.9%) となっている。

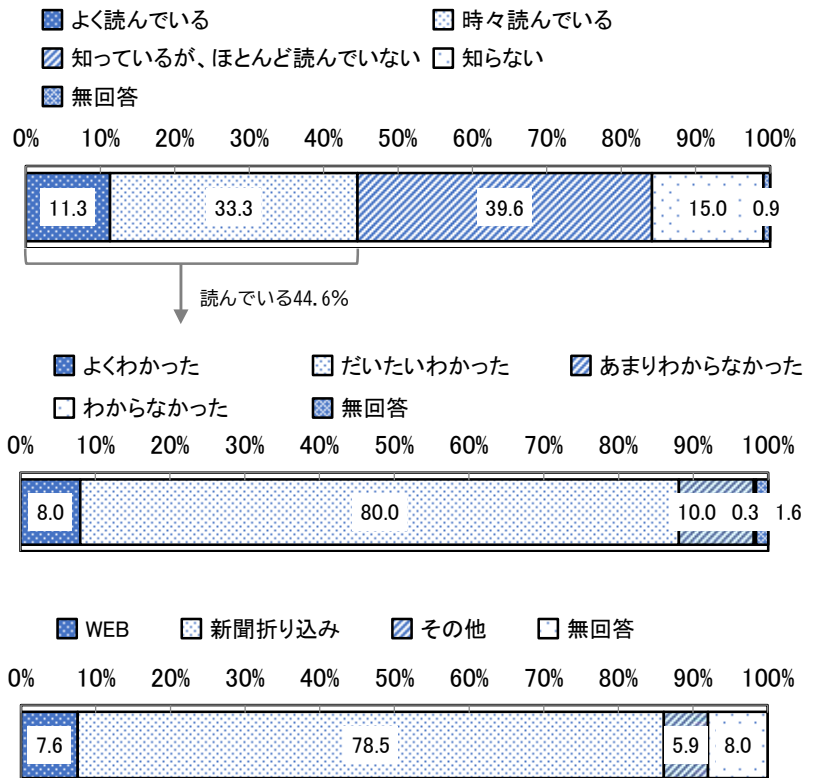


6 広報媒体の浸透度 — 県民だよりを“読んでいる”人は44.6%

Q6	あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。
SQ1	内容はわかりやすかったですか。(○は1つ)
SQ2	どのような方法で読んでいますか。(○は1つ) ※「県民だより」のみ

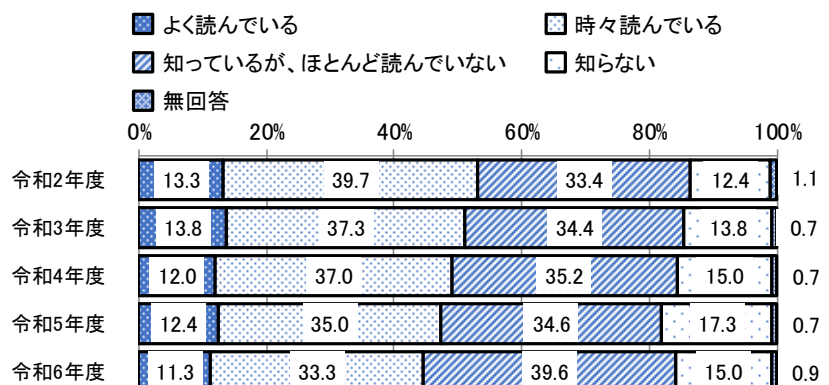
Q6-1 県民だより

- 「よく読んでいる」(11.3%)と「時々読んでいる」(33.3%)を合わせた44.6%は県民だよりを読んでいる。
- 内容の理解度は、「よくわかった」(8.0%)と「だいたいわかった」(80.0%)を合わせた88.0%の人がわかりやすかったと回答している。
- どのような方法で読んでいるのかについては、大部分が「新聞折り込み」(78.5%)となっている。



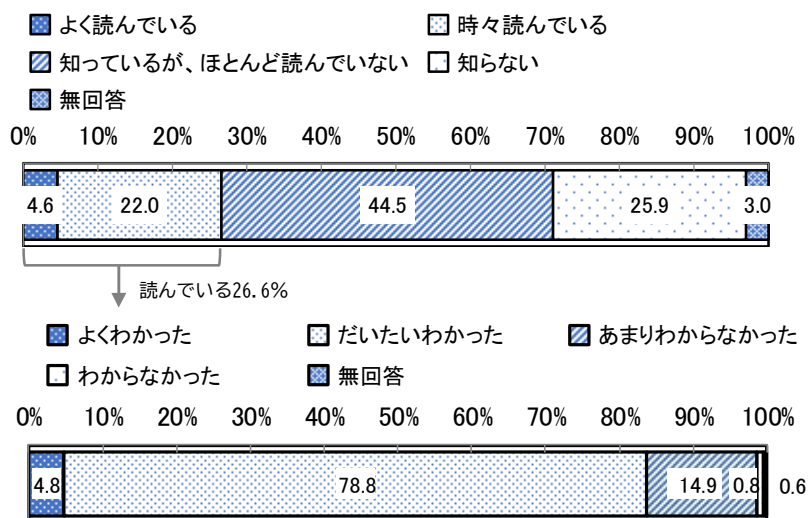
経年比較

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた、読んでいる割合は、令和2年度以降は減少傾向にあり、今年度は前年度より2.8ポイント減少した。



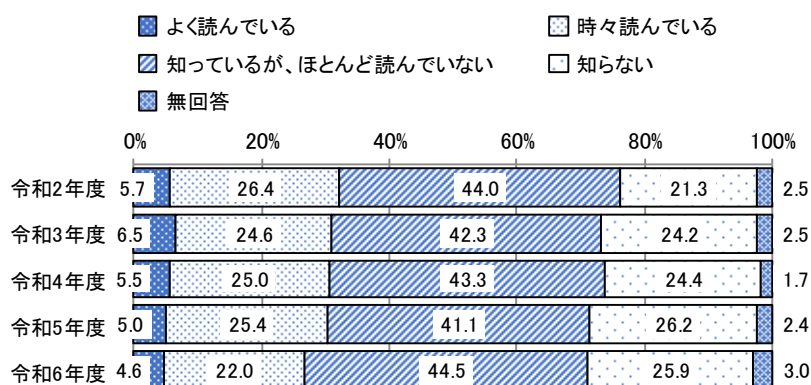
Q6-2 静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」(4.6%)と「時々読んでいる」(22.0%)を合わせた26.6%は静岡県議会だよりを読んでいる。
- 「よくわかった」(4.8%)と「だいたいわかった」(78.8%)を合わせた83.6%の人がわかりやすかったと回答している。



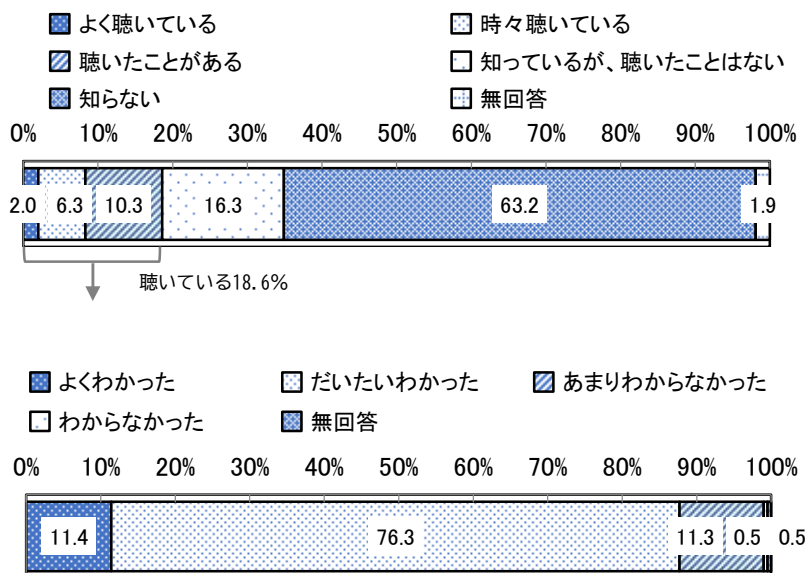
経年比較

- 「よく読んでいる」と「時々読んでいる」を合わせた、読んでいる割合は、今年度は前年度より3.8ポイント減少した。
- 読んでいる割合に「知っているが、ほとんど読んでいない」を合わせた認知している割合は、令和2年度以降7割台で推移している。



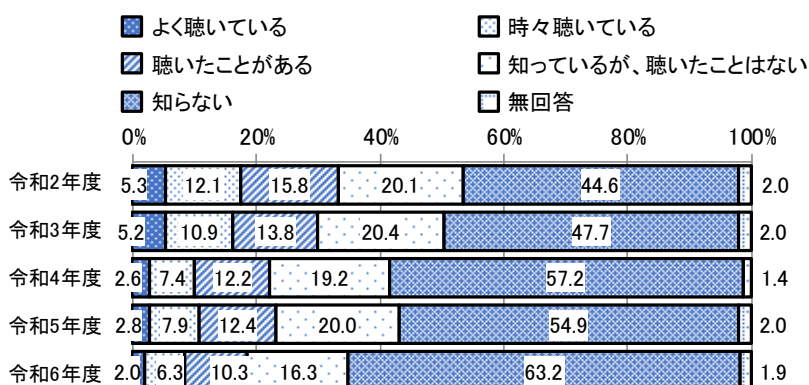
Q6-3 ラジオ広報

- 「よく聴いている」(2.0%)と「時々聴いている」(6.3%)、「聴いたことがある」(10.3%)を合わせた18.6%はラジオ広報を聴いている。
- 「よくわかった」(11.4%)と「だいたいわかった」(76.3%)を合わせた87.7%の人がわかりやすかったと回答している。



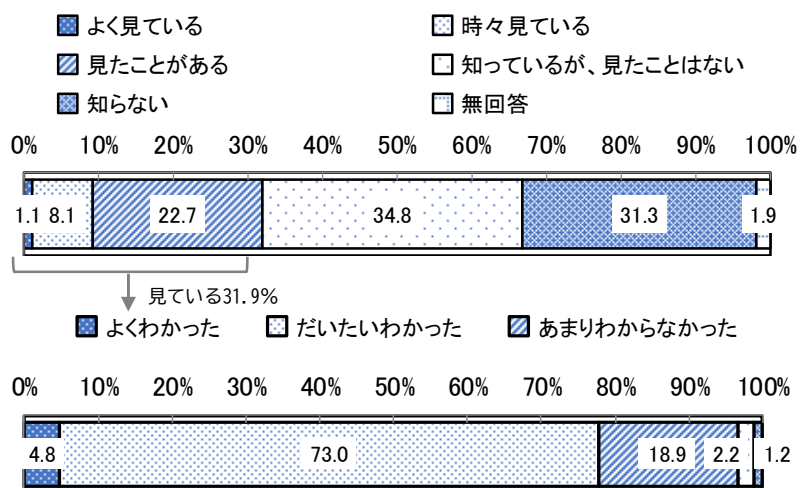
経年比較

- 「よく聴いている」と「時々聴いている」、「聴いたことがある」を合わせた、聴いている割合は、前年度(23.1%)より4.5ポイント減少した。



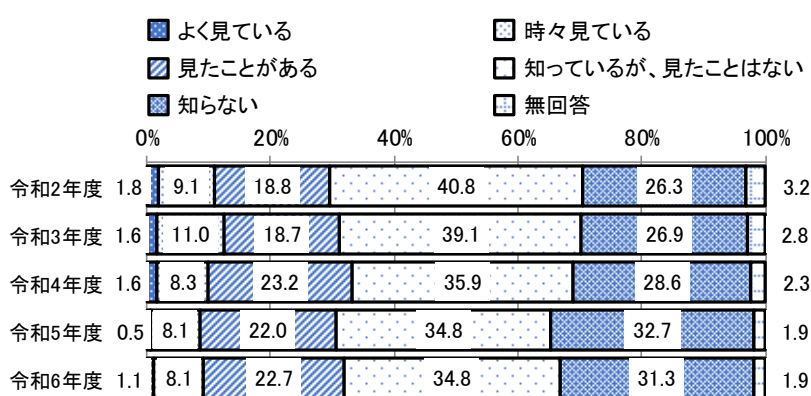
Q6-4 県のホームページ

- 「よく見ている」(1.1%)と「時々見ている」(8.1%)、「見たことがある」(22.7%)を合わせた31.9%は県のホームページを見ている。
- 「よくわかった」(4.8%)と「だいたいわかった」(73.0%)を合わせた77.8%の人がわかりやすかったと回答している。



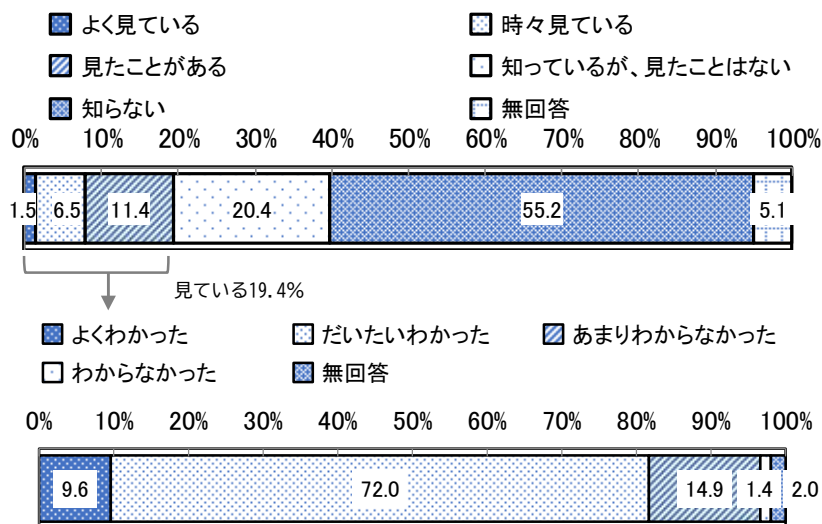
経年比較

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた、見ている割合は、前年度(30.6%)より1.3ポイント増加した。



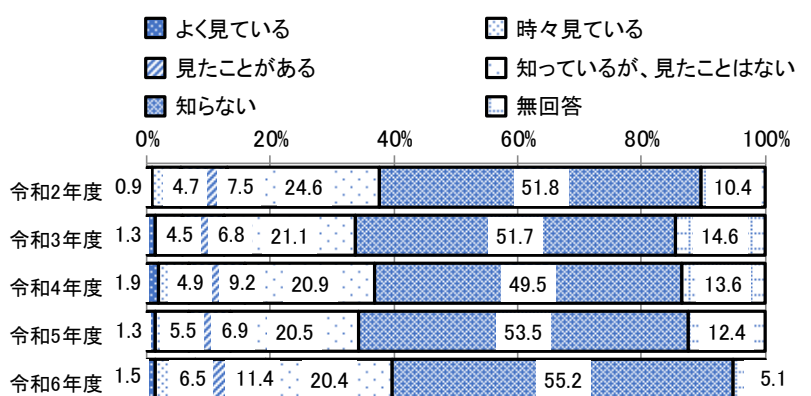
Q6-5 SNS

- 「よく見ている」(1.5%)と「時々見ている」(6.5%)、「見たことがある」(11.4%)を合わせた19.4%はSNSを見ている。
- 「よくわかった」(9.6%)と「だいたいわかった」(72.0%)を合わせた81.6%の人がわかりやすかったと回答している。



経年比較

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた、見ている割合は、前年度(13.7%)より5.7ポイント増加した。

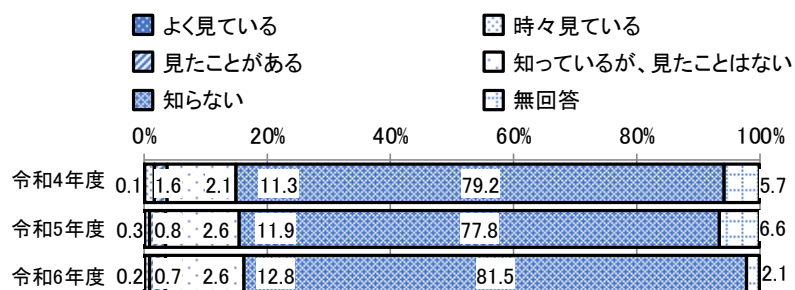
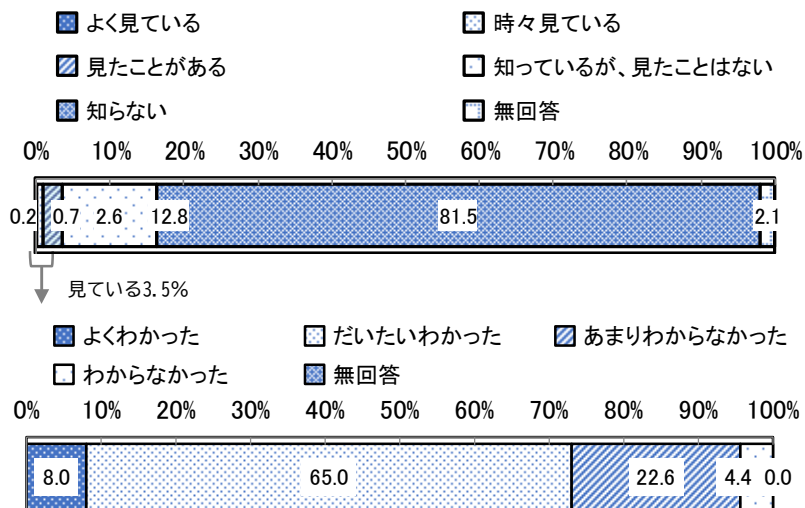


Q6-6 YouTube

- 「よく見ている」(0.2%)と「時々見ている」(0.7%)、「見たことがある」(2.6%)を合わせた3.5%はYouTubeを見ている。
- 「よくわかった」(8.0%)と「だいたいわかった」(65.0%)を合わせた73.0%の人がわかりやすかったと回答している。

経年比較

- 「よく見ている」と「時々見ている」、「見たことがある」を合わせた、見ている割合は、前年度(3.7%)より0.2ポイント減少した。



7 日常の課題や生活における意識

Q7

静岡県では、「有徳の人」づくりを進めています。あなたは、ご自身が日頃から「有徳の人」としての行動ができていると思いますか。（○は1つ）

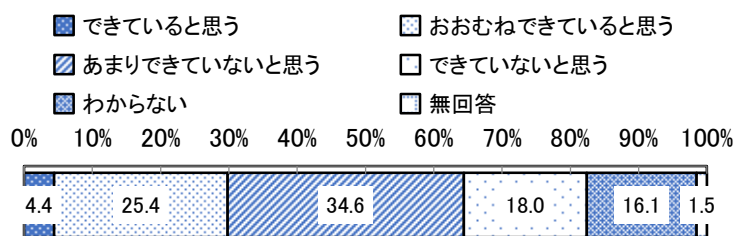
※「有徳の人」…「自らの個性に応じて「才」を磨き、自他を大切にしながら「徳」を積み、社会や人のために貢献する「才徳兼備」の人」としています。

<例>

- ・見識を高める努力をする人
- ・自分なりに勉強やスポーツを頑張る人
- ・何事にも感謝の気持ちを大切にする人
- ・困っている人に手を差し伸べる人
- ・ボランティア活動を行う人

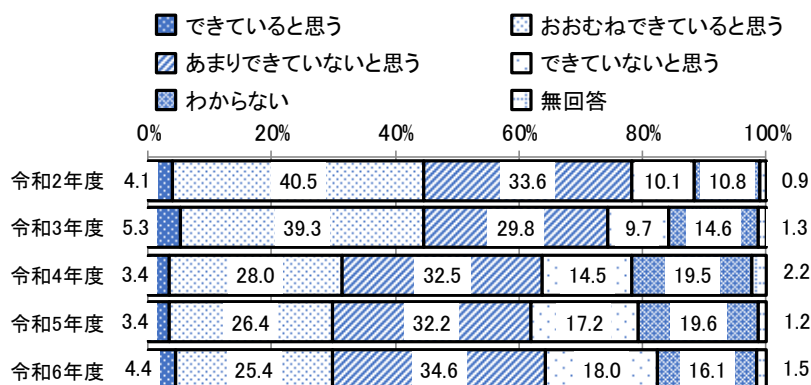
有徳の人づくり

- 「できていると思う」（4.4％）と「おおむねできていると思う」（25.4％）を合わせた29.8％は自身を“できている”と評価し、「あまりできていないと思う」（34.6％）と「できていないと思う」（18.0％）を合わせた52.6％は自身を“できていない”と評価している。



経年比較

- 「有徳の人」として行動できていると思う人の割合は、前年度（29.8％）と同率である。



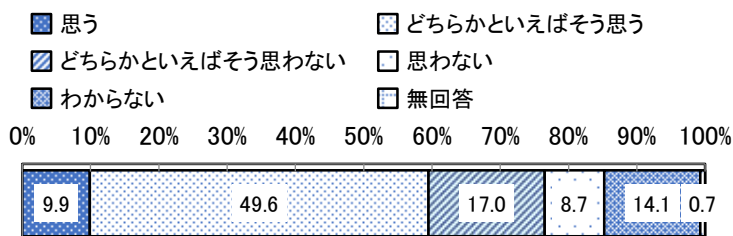
Q8

あなたのお住まいの地域は、地域の絆や支え合いの仕組みが形成されていると思いますか。(〇は1つ)

※「地域の絆や支え合い」…地域の防災や防犯、環境美化、高齢者の見守り等の福祉などを含む、幅広い住民のふれあいや助け合いの仕組みのことをいいます。

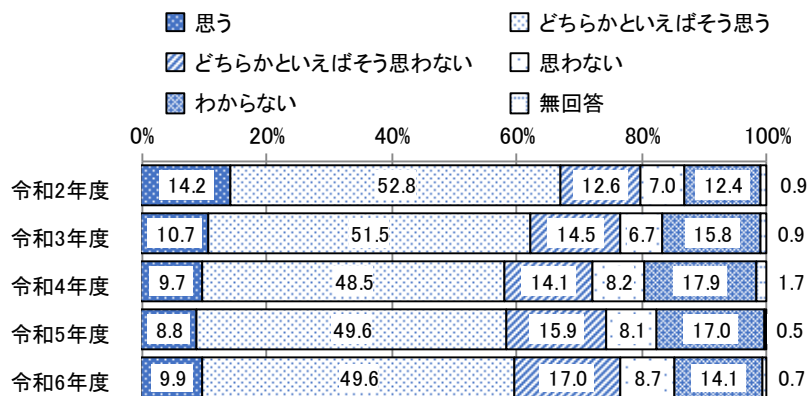
地域コミュニティの活性化

- 「思う」(9.9%)と「どちらかといえばそう思う」(49.6%)を合わせた59.5%は形成されていると思うと回答し、「どちらかといえばそう思わない」(17.0%)と「思わない」(8.7%)を合わせた25.7%は形成されていないと回答している。



経年比較

- 形成されていると思う人の割合は、前年度(58.4%)より1.1ポイント増加した。



Q9

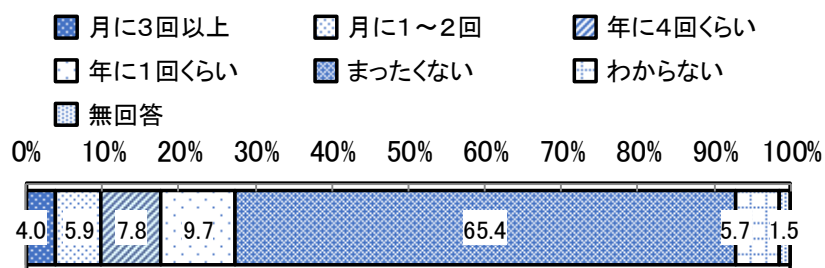
あなたは、この1年でどのくらい、次にあげるような「子どもをはぐくむ活動」に参加しましたか。(〇は1つ)

※「子どもをはぐくむ活動」の例

- ・PTAや健全育成会、子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、子育てサークル等の活動（役員活動だけではなく、保護者やボランティア等としての参加や活動の手伝いも含む）
- ・学校支援活動や地域における活動（授業や学校行事への協力、部活動支援、放課後の学習支援、放課後子供教室、体験学習、郷土学習、花壇整備、登下校見守り、本の読み聞かせ など）

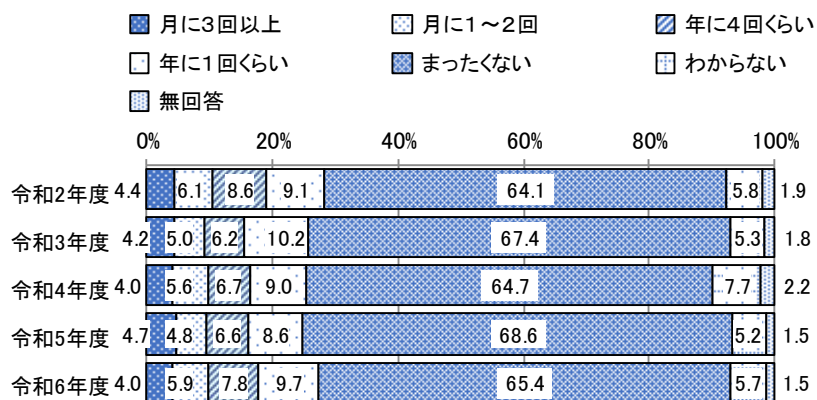
子どもをはぐくむ活動

- 「月に3回以上」(4.0%)、「月に1～2回」(5.9%)、「年に4回くらい」(7.8%)、「年に1回くらい」(9.7%)を合わせた27.4%は子どもをはぐくむ活動をしていると回答しており、「まったくない」(65.4%)の半数以下となっている。



経年比較

- 子どもをはぐくむ活動をしている人の割合は、前年度(24.7%)より2.7ポイント増加した。



Q10

あなたは、現在お住まいの住宅と、住宅のまわりの環境について、どの程度満足していますか。(〇は1つ)

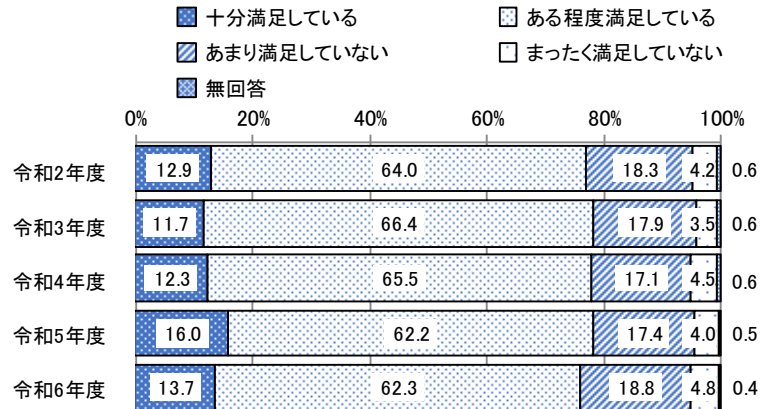
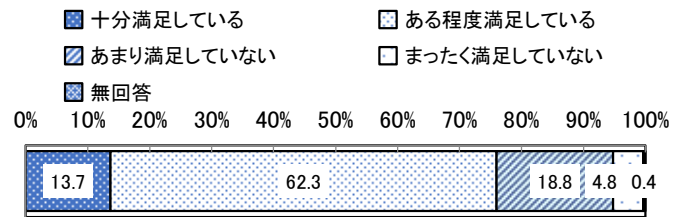
※「住宅のまわりの環境」…敷地や近隣だけでなく、歩いて回れる程度の地域の居住環境を含みます。

住宅・住環境の満足度

- 「十分満足している」(13.7%)と「ある程度満足している」(62.3%)を合わせた76.0%は満足していると回答している。

経年比較

- 満足している割合は令和2年度以降は7割台で推移している。



Q11

あなたは、県内で購入する食品の安全性について、どの程度信頼できると思いますか。(〇は1つ)

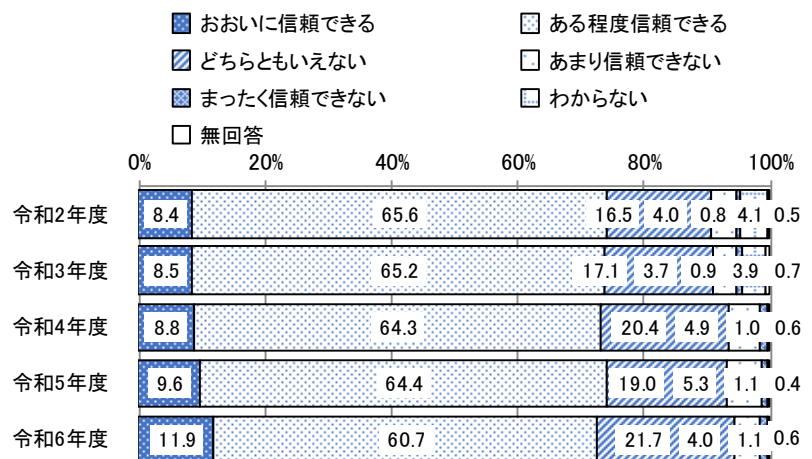
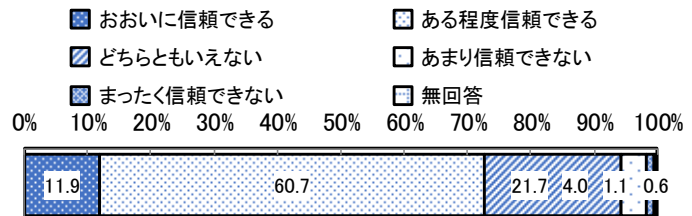
※「食品の安全性」…農産物など輸入食品の安全性や、遺伝子組換え食品・食品添加物・農薬などの安全性、食品表示自体の信頼性などをいいます。

食品の安全性

- 「おいに信頼できる」(11.9%)と「ある程度信頼できる」(60.7%)を合わせた72.6%は信頼できると回答し、「あまり信頼できない」(4.0%)と「まったく信頼できない」(1.1%)を合わせた5.1%は信頼できないと回答している。

経年比較

- 信頼できる人の割合は、令和2年度以降は7割台で推移している。



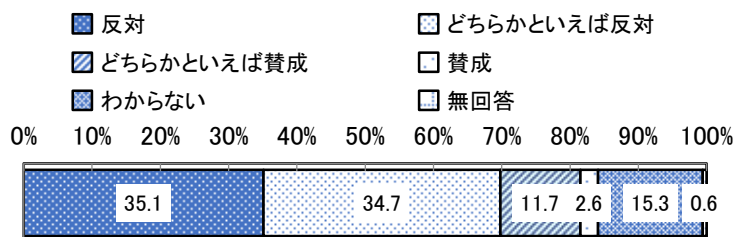
※令和4年度より選択肢から「わからない」を削除。

Q12

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(〇は1つ)

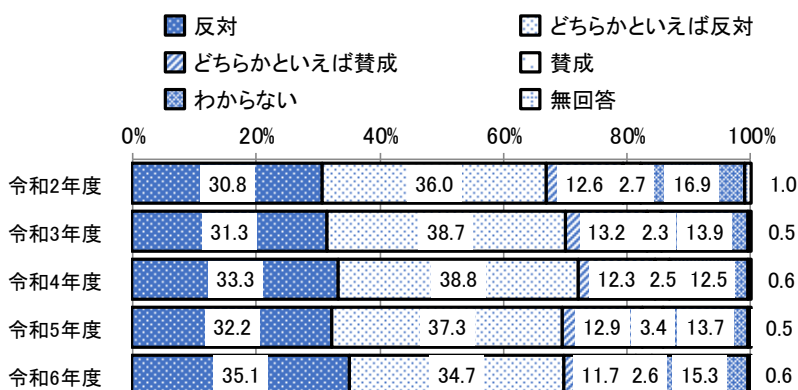
男女共同参画に関する意識

- 「反対」(35.1%)と「どちらかといえば反対」(34.7%)を合わせた69.8%は反対と回答し、「どちらかといえば賛成」(11.7%)と「賛成」(2.6%)を合わせた14.3%は賛成と回答している。



経年比較

- 「反対」または「どちらかといえば反対」と思う人の割合は、今年度は69.8%と、前年度(69.5%)より0.3ポイント増加した。



Q13

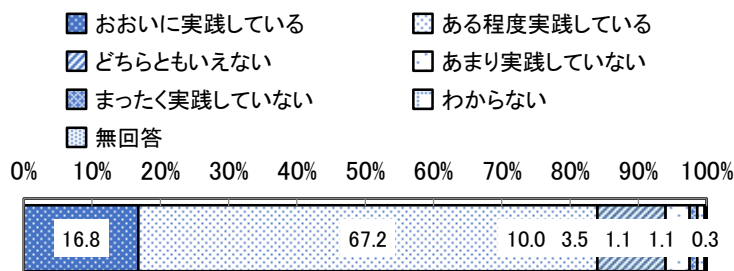
あなたは、環境への配慮を実践していますか。(〇は1つ)

※「環境への配慮」の例

- ・節電や節水、家庭ごみの分別、マイバッグの持参、低燃費車や省エネ家電への切り替え、エコドライブ、清掃活動への参加、緑化など

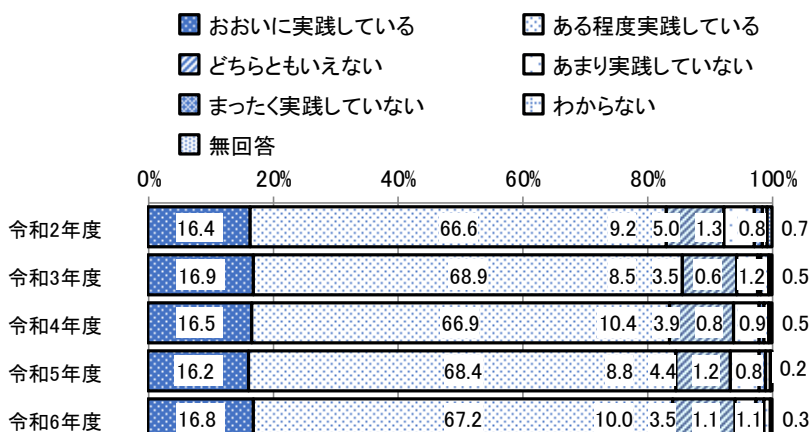
環境保全活動の実践

- 「おおいに実践している」(16.8%)と「ある程度実践している」(67.2%)を合わせた84.0%は実践していると回答し、「あまり実践していない」(3.5%)と「まったく実践していない」(1.1%)を合わせた4.6%は実践していないと回答している。



経年比較

- 実践している人の割合は、令和2年度以降は8割台で推移している。

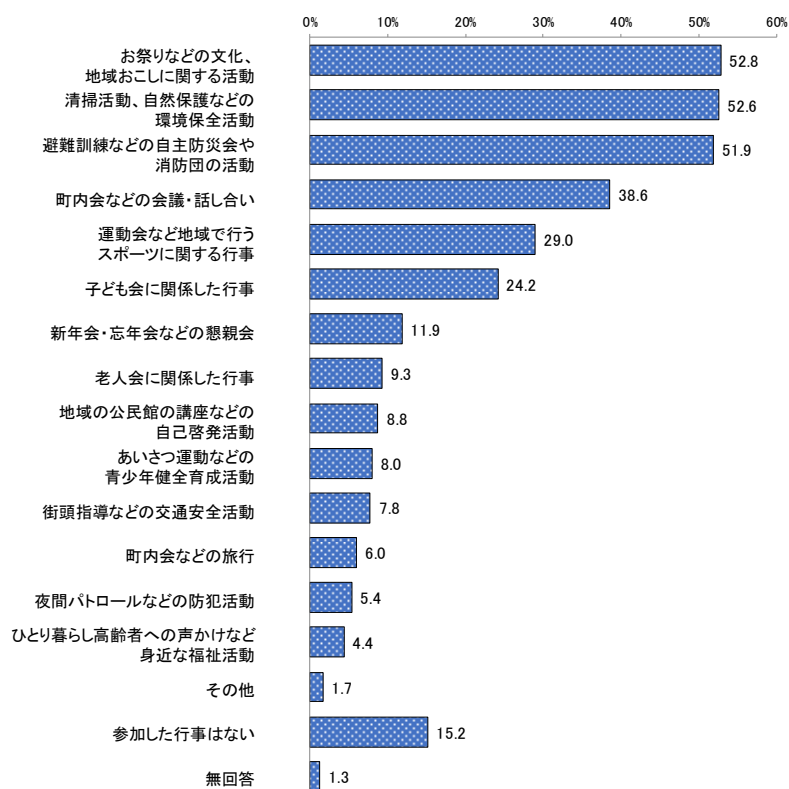


Q14

あなたは、地域のどのような行事や活動に参加したことがありますか。
(〇はいくつでも)

県民の地域活動への参加

- 「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」(52.8%)が最も多く、以下「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」(52.6%)、「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」(51.9%)などとなっている。
- 「参加した行事はない」は15.2%となっている。



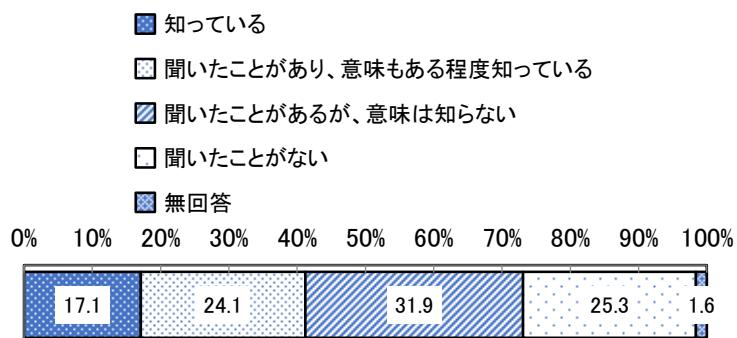
Q15

「生物多様性」という言葉や意味について、どの程度知っていますか。(〇は1つ)

※「生物多様性」…地域ごとに固有の自然や特有の生物が存在し、その生物が“食べる－食べられる”といった食物連鎖などの関係でつながっていることをいいます。人類は、生物多様性からもたらされる様々な恵みに支えられており、この恵みを今後も享受していくためには、生物多様性を維持し後世へ継承していくことが必要不可欠です。

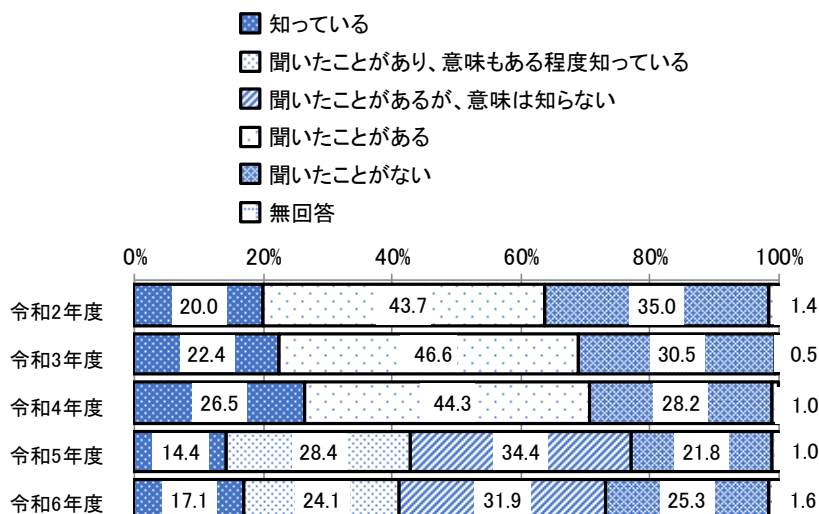
生物多様性への理解

- 「知っている」(17.1%)、「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」(24.1%)、「聞いたことがあるが、意味は知らない」(31.9%)を合わせた73.1%は生物多様性について認知している。



経年比較

- 「知っている」または「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」、「聞いたことがあるが、意味は知らない」という人の割合は、今年度は73.1%と、前年度(77.2%)より4.1ポイント減少した。
- なお、令和5年度より選択肢が変更されたので、令和4年度までの数値は参考として掲載している。



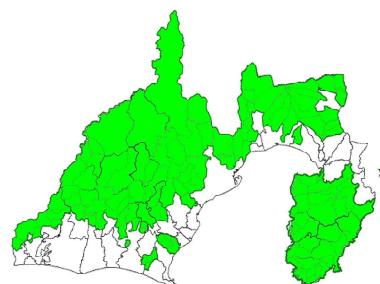
※令和5年度より選択肢から「聞いたことがある」を削除し、選択肢に「聞いたことがあり、意味もある程度知っている」、「聞いたことがあるが、意味は知らない」を新設。

Q16

あなたは、中山間地域に住みたいと思いますか。（中山間地域にお住まいの方は、住み続けたいと思いますか。）（○は1つ）

※「中山間地域」…「平野の周辺部から山間部に至る地域」で、
農林業を主な産業としている地域のことをいいます。

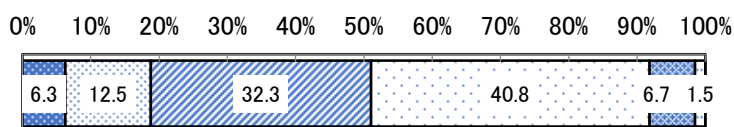
※県内の中山間地域のイメージは、右図の網掛け部分です。



中山間地域での生活意向

- 「思う」(6.3%)と「まあまあ思う」(12.5%)を合わせた18.8%は住みたいと思うと回答し、「あまり思わない」(32.3%)と「思わない」(40.8%)を合わせた73.1%は住みたいと思わないと回答している。

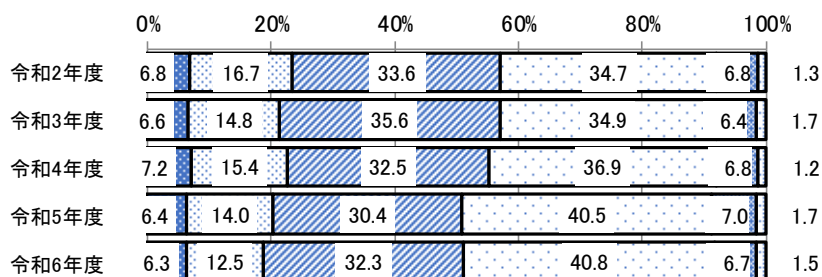
思う
 まあまあ思う
 あまり思わない
 思わない
 わからない
 無回答



経年比較

- 住みたいと思う人の割合は、令和2年度以降は2割台で推移していたが、今年度は18.8%と、2割を下回った。

思う
 まあまあ思う
 あまり思わない
 思わない
 わからない
 無回答

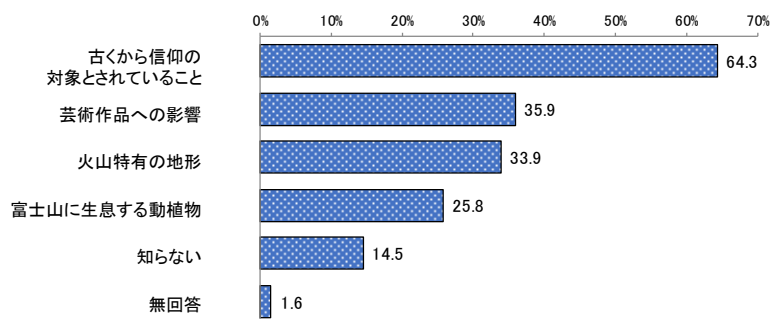


Q17

富士山は世界文化遺産として大きく2つの価値が認められました。あなたは、次のうち、どれが認められたと思いますか。(〇は2つ)

富士山の世界文化遺産としての価値

- 「古くから信仰の対象とされていること」(64.3%)が最も多く、以下「芸術作品への影響」(35.9%)、「火山特有の地形」(33.9%)となっている。
- 「知らない」は14.5%となっている。



Q18

あなたは、この1年でどのくらい、文化・芸術に関する鑑賞又は活動をしましたか。(〇は1つ)

※「文化・芸術」…芸術（音楽、映画、美術、演劇、舞踊等）、芸能（漫才、落語、歌唱、歌舞伎、能、講談、浪曲等）、文芸（短歌、俳句、詩、小説等）、生活文化（囲碁、将棋、お茶、生け花、手芸等）、お祭りへの参加や見物、文化財（建造物、遺跡、古文書等）を意味しています。

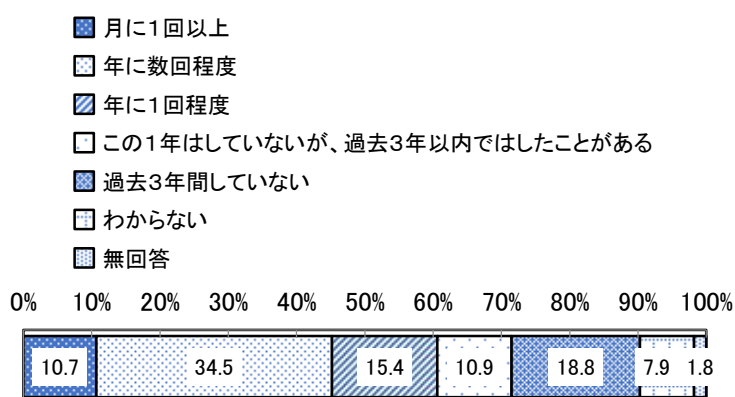
※「鑑賞」…映画館や美術館、博物館、またホールや劇場などの会場で、作品やコンサートを見たり聞いたりした経験を意味しています。

※「活動」…個人又はグループで、文化・芸術を継続して行う経験を意味しています。単発の活動やお試しの体験講座等は含みません。

※「鑑賞」と「活動」のどちらか一方でも行えば、「経験した」ものとします。

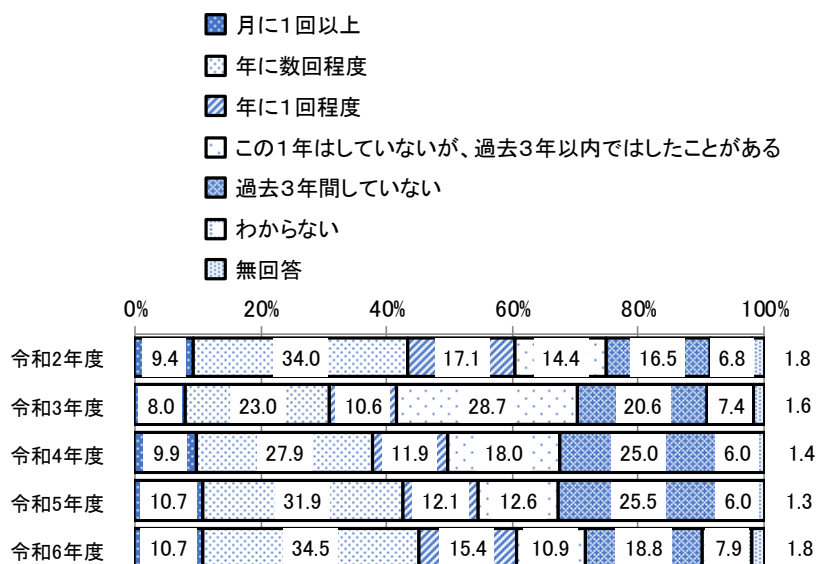
文化・芸術の鑑賞又は活動

- 「月に1回以上」(10.7%)、「年に数回程度」(34.5%)、「年に1回程度」(15.4%)を合わせた60.6%はこの1年で文化・芸術の鑑賞又は活動をしている。



経年比較

- この1年で鑑賞又は活動をした人の割合は、今年度(60.6%)は前年度(54.7%)より5.9ポイント増加し、令和2年度(60.5%)以来の6割台となった。

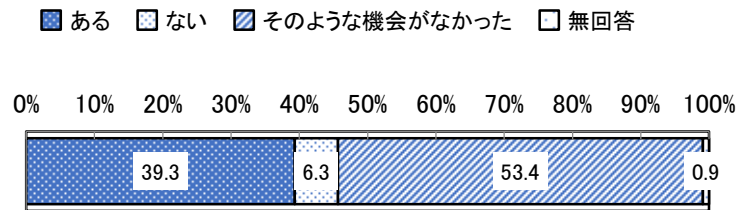


Q19

あなたは、この1年間に、困っている人を見かけた際に声をかけたことがありますか。※困っている人を見かけなかった方は「3 そのような機会がなかった」を選んでください。(〇は1つ)

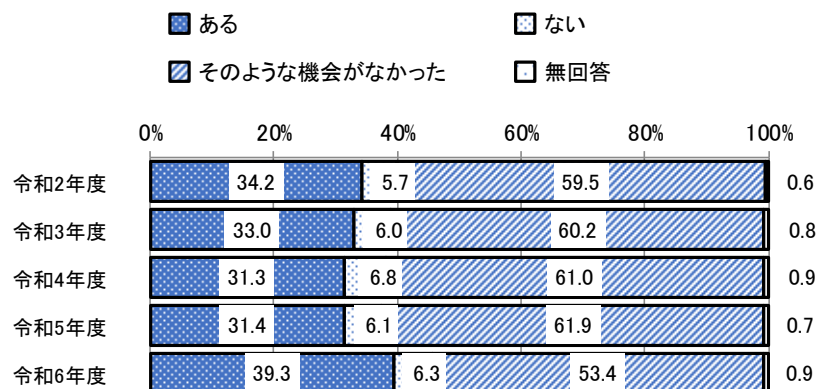
心のユニバーサルデザインの実践

- 「ある」と回答した割合は39.3%で、「ない」と回答した割合は6.3%となっている。
- 「そのような機会がなかった」は53.4%となっている。



経年比較

- 心のユニバーサルデザインを実践している人の割合は、今年度(39.3%)は、前年度(31.4%)より7.9ポイント増加し、令和2年度以降最も高かった。



<ユニバーサルデザインに関する意識>

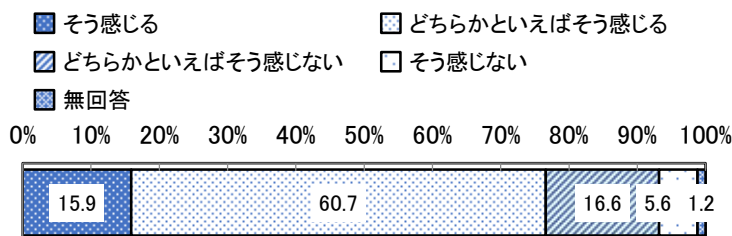
8 ユニバーサルデザインに関する意識

Q20

あなたの周りの多くの人が利用する施設では、エレベーター、スロープ、手すり、バリアフリートイレが整備されるなど、使いやすくなってきていると感じますか。
(○は1つ)

施設の使いやすさ

- 「そう感じる」(15.9%)と「どちらかといえば感じる」(60.7%)を合わせた76.6%は、施設が使いやすくなってきていると感じると回答している。

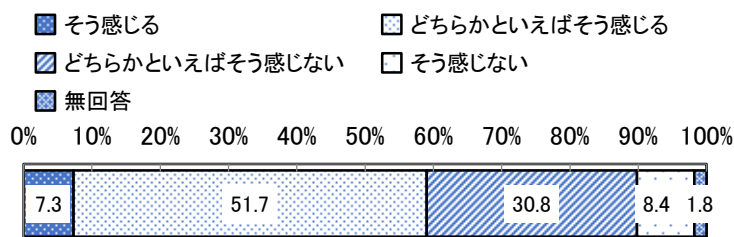


Q21

あなたは、日常生活で使う製品、社会生活に必要な情報提供が、多言語対応、視覚・聴覚障害者対応、ピクトグラムなど、さまざまな人の立場に立って配慮されてきていると感じますか。(○は1つ)

さまざまな人への配慮の実感

- 「そう感じる」(7.3%)と「どちらかといえば感じる」(51.7%)を合わせた59.0%は、さまざまな人に配慮されていると感じると回答している。

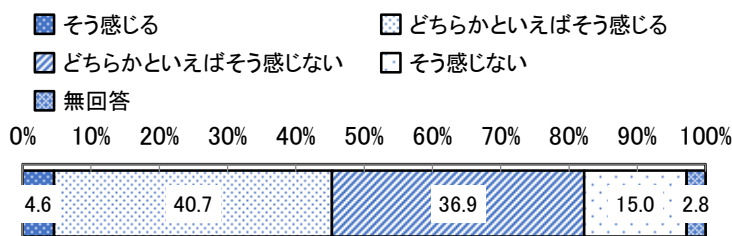


Q22

あなたは、日常生活において、年齢や国籍、障害等のさまざまな特性や違いに配慮し、必要な手助けをするなど、相手の立場に立って行動をしている県民が増えてきていると感じますか。(○は1つ)

周囲の助け合いの実感

- 「そう感じる」と「どちらかといえば感じる」を合わせた「感じる」(45.3%)よりも、「どちらかといえばそう感じない」と「そう感じない」を合わせた「感じない」(51.9%)が上回った。



<次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）に関する意識>

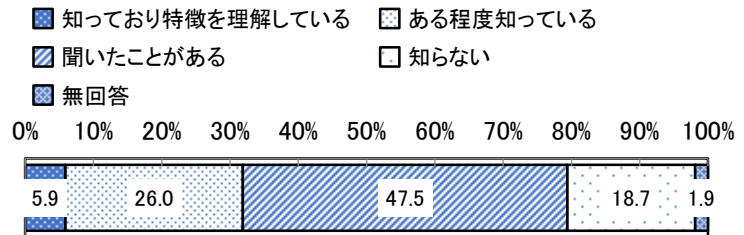
9 次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）に関する意識

Q23

次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）について知っていますか。（○は1つ）

次世代エアモビリティの認知

- 「知っており特徴を理解している」（5.9%）、「ある程度知っている」（26.0%）を合わせた31.9%は“知っている”と回答している。



Q24

次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）を利用したいと思いますか。（○は1つ）

SQ1

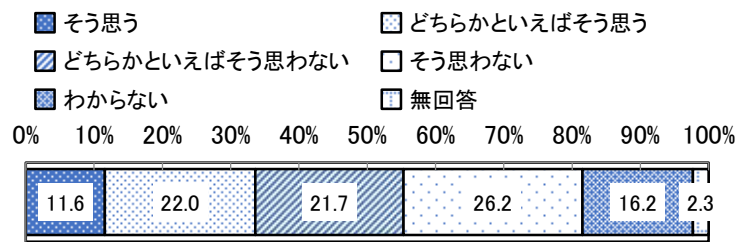
どのような場面で次世代エアモビリティ（空飛ぶクルマ）を利用したいと思いますか。（○はいくつでも）

SQ2

利用したいと思わない理由を教えてください。（○はいくつでも）

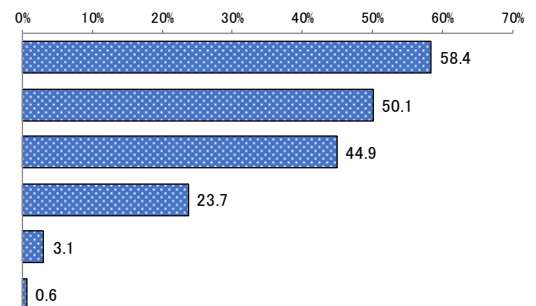
次世代エアモビリティの利用意向

- 「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた“利用したいと思う”（33.6%）よりも、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた“利用したいと思わない”（47.9%）が上回った。



利用したいと思う
33.6%

観光
中距離の移動（近隣の市町）
日常生活における短距離の移動（生活圏域）
業務での利用（通勤・出張等）
その他
無回答



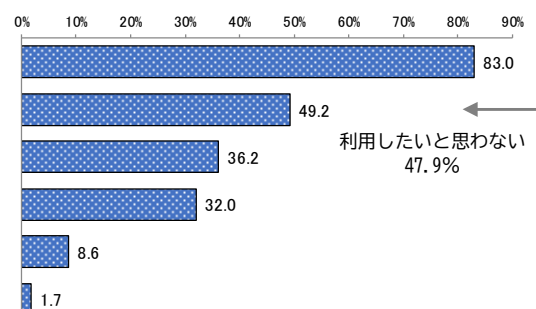
SQ1 次世代エアモビリティを利用したい場面

- 「観光」（58.4%）が最も多く、以下「中距離の移動（近隣の市町）」（50.1%）、「日常生活における短距離の移動（生活圏域）」（44.9%）となっている。

SQ2 次世代エアモビリティを利用したいと思わない理由

- 「安全性に不安があるから」（83.0%）が最も多くなっている。

安全性に不安があるから
費用が高そうだから
天候に左右されそうだから
乗降場所が限られそうだから
その他
無回答



利用したいと思わない
47.9%

<社会のデジタル化に関する意識>

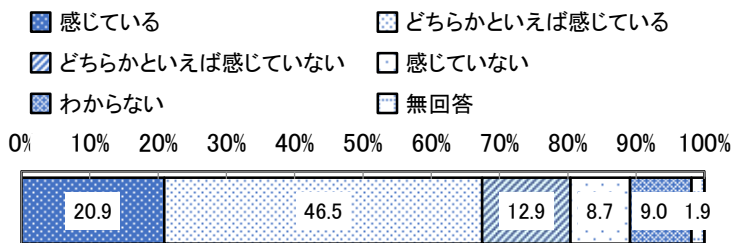
10 社会のデジタル化に関する意識

Q25

社会においてデジタル化が進んでいますが、日々の生活を過ごす中で、利便性が向上したと感じていますか。(〇は1つ)

デジタル化による 利便性向上の実感

- 「感じている」(20.9%)と「どちらかといえば感じている」(46.5%)を合わせた67.4%はデジタル化で利便性が向上したと感じていると回答している。

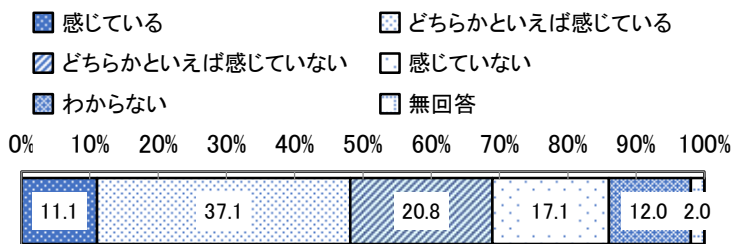


Q26

社会におけるデジタル化が進んだことにより、以前と比べてあなたの生活は豊かになったと感じていますか。(〇は1つ)

デジタル化による豊かさの実感

- 「感じている」(11.1%)と「どちらかといえば感じている」(37.1%)を合わせた48.2%はデジタル化で生活が豊かになったと感じていると回答している。



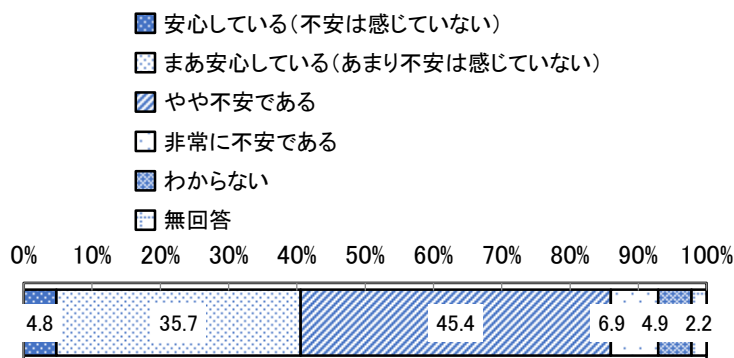
<体感治安に関する意識>

11 体感治安に関する意識

Q27	あなたは、あなたやあなたの家族が、県内で犯罪被害に遭うのではないかと不安を、どの程度感じていますか。(〇は1つ)
SQ	不安を感じている犯罪は何ですか。(〇はいくつでも)

体感治安に関する意識

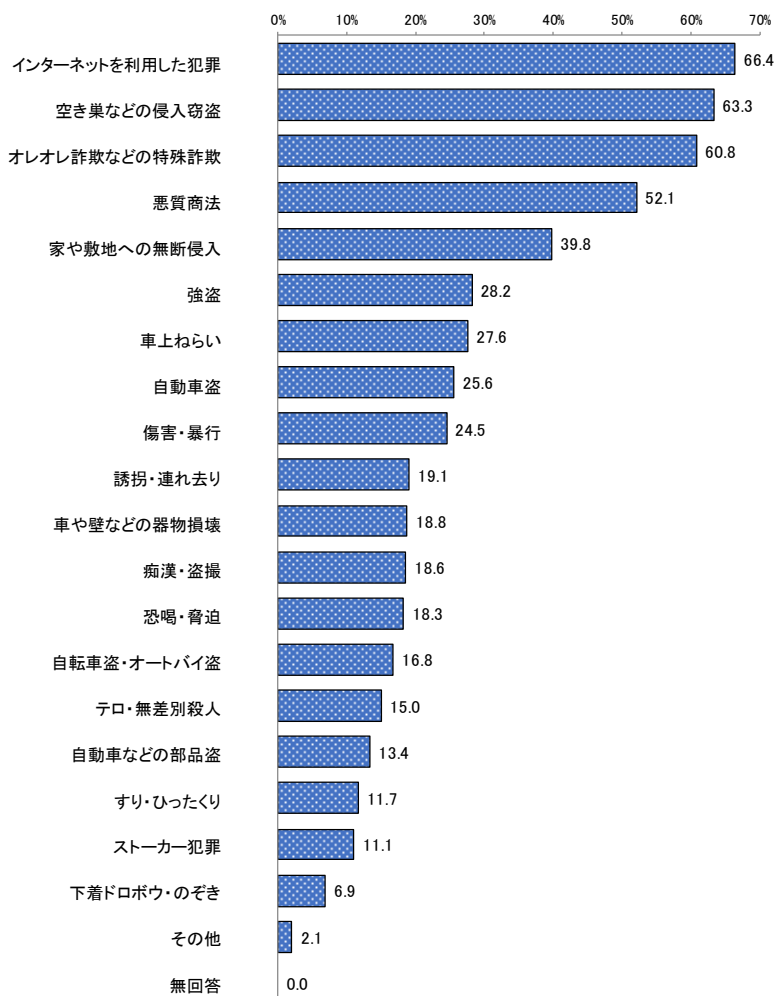
- 「やや不安である」(45.4%)と「非常に不安である」(6.9%)を合わせた52.3%は不安を感じていると回答している。



不安を感じている
52.3%

SQ 不安を感じている犯罪

- 「インターネットを利用した犯罪」(66.4%)が最も多く、以下「空き巣などの侵入窃盗」(63.3%)、「オレオレ詐欺などの特殊詐欺」(60.8%)となっている。



<森林整備に関する意識>

12 森林整備に関する意識

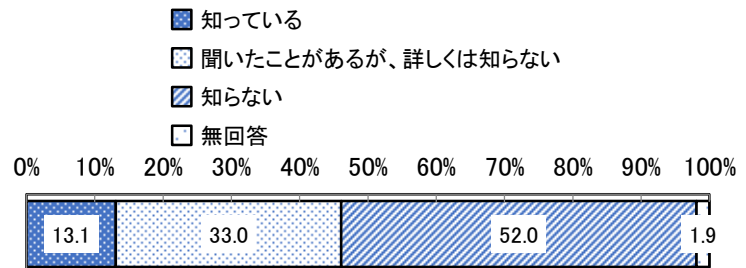
Q28

県は、平成18年4月から県民の皆様に、県の独自課税となる「森林（もり）づくり県民税（個人400円/年）」を負担していただき、「荒廃している森林」や「台風などにより倒木が発生した森林」などを再生する「森の力再生事業」を実施してきました。

あなたは、「森の力再生事業」を、知っていますか。（〇は1つ）

「森の力再生事業」の認知

- 「知らない」(52.0%) が過半数を占め、「知っている」(13.1%) を上回った。



Q29

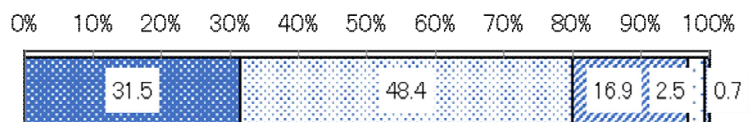
令和6年度から、新たな国税として「森林環境税（個人1,000円/年）」が個人住民税とあわせて徴収されます。

森林環境税は、県が実施する「森の力再生事業」とは別に、市町が実施する「里山や人家の近くなどの森林整備」に活用されます。あなたは、県が取り組む「森の力再生事業による荒廃森林の整備」と市町が取り組む「森林環境譲与税による森林整備」を組み合わせ、森林整備を進めていくことについて、どのようにお考えですか。（〇は1つ）

森林整備に対する考え

- 「整備の必要性は理解できるが、負担額が増えるので、税の在り方や使途を見直して欲しい」が48.4%で最も高く、「整備の必要性は理解できるので、負担額は増えるが、税の使途を明確にして今後も進めて欲しい」の31.5%を上回った。

- ☒ 森林整備の必要性は理解できるので、負担額は増えるが、税の使途を明確にして今後も進めて欲しい
- ☒ 森林整備の必要性は理解できるが、負担額が増えるので、税の在り方や使途を見直して欲しい
- ☒ わからない
- ☐ その他
- ☒ 無回答



<生涯学習に関する意識>

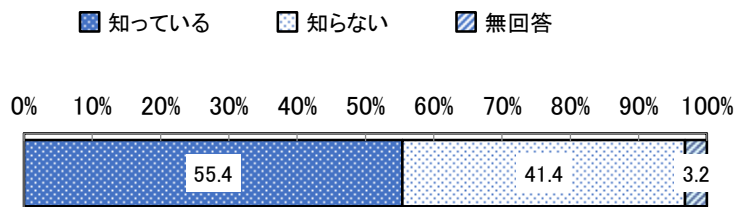
13 生涯学習に関する意識

Q30

あなたは生涯学習とはどのようなものか知っていますか。(〇は1つ)

生涯学習への理解

- 「知っている」が55.4%で過半数を占め、「知らない」の41.4%を上回った。

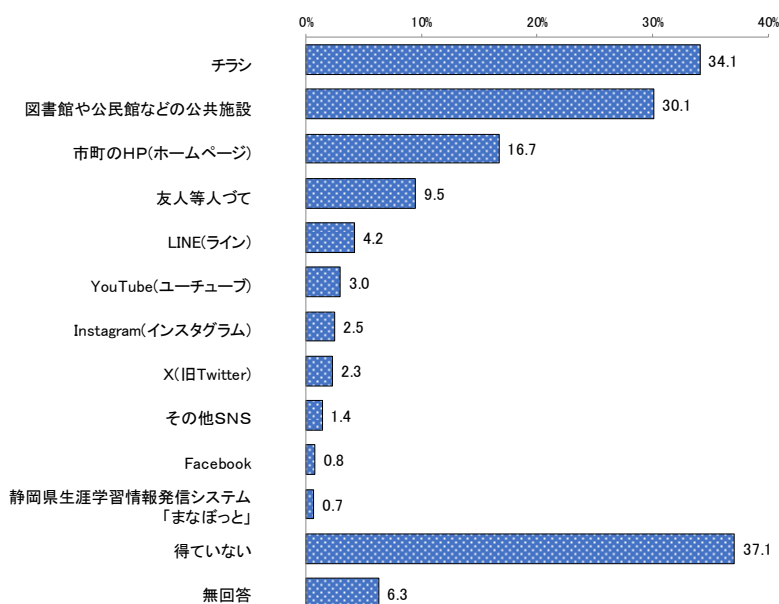


Q31

あなたは生涯学習に関する講座・イベント情報をどのように得ていますか。(〇は3つまで)

講座・イベント情報の入手方法

- 具体的な回答については、「チラシ」(34.1%)が最も多く、以下「図書館や公民館などの公共施設」(30.1%)、「市町のHP(ホームページ)」(16.7%)となっている。
- 一方、「得ていない」が37.1%で割合としては最も多くなっている。

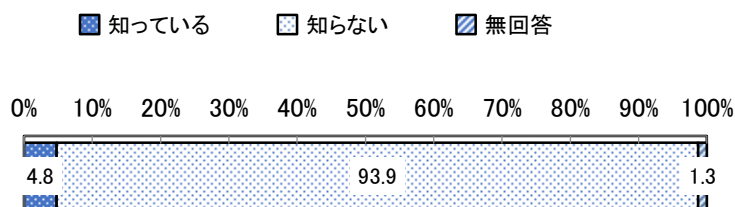


Q32

あなたは【静岡県生涯学習情報発信システム「まなぼっと」】を知っていますか。(〇は1つ)

「まなぼっと」の認知

- 「知らない」が93.9%となり、「知っている」の4.8%を大きく上回った。



< 充実感に関する意識 >

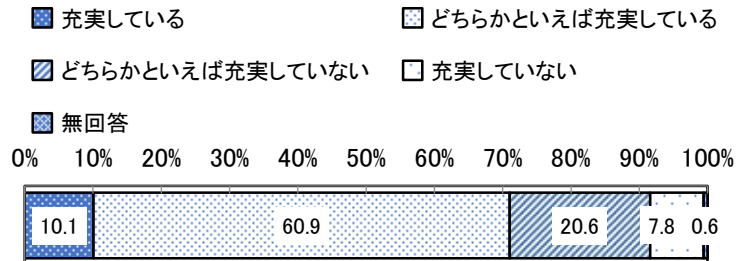
14 充実感に関する意識

Q33

あなたは、今の生活が充実していると思いますか。あなたの実感をお答えください。(○は1つ)

充実感に関する意識

- 「充実している」(10.1%)と「どちらかといえば充実している」(60.9%)を合わせた71.0%は、今の生活が充実していると思うと回答している。



令和6年度
県政世論調査
概要報告書

令和6年12月

編集・発行 静岡県知事戦略局広聴広報課 県民のこえ班
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
電話 (054) 221-3232
FAX (054) 254-4032
e-mail kenminnokoe@pref.shizuoka.lg.jp
